

〒890-0065鹿児島市郡元1-21-30共通教育棟1号館2階修学支援室 (障害学生支援センター)

TEL&FAX:099-285-3287

E-mail:learning-support@km.kagoshima-u.ac.jp

URL:learning-support@km.kagoshima-u.ac.jp

巻頭言

「今後もより良き学生支援の実現のため、皆様のご協力をお願いいたします」 (前) 障害学生支援センター長 前田雅人

教職員の皆様、日頃から障害学生支援センターへのご助力に感謝いたします。私は今年3月末に退職いたしました(前) 障害学生支援センター長の前田です。本来なら新しいセンター長に執筆願うべきところですが、平成26年以来センター長を担ってきましたので、締めめのあいさつとして書かせていただきます。

さて、これまでの障害学生支援センターの主な活動内容は、①障害がある学生さんへの修学支援および大学生活支援、②障害学生支援委員会の開催、③鹿児島大学バリアフリーマップの作成、④障害学生支援に係るガイドブックの作成、⑤シンポジウム、セミナーの開催、⑥学内外の関係組織との連携、⑦障害学生の進学および就職支援、⑧学内の環境整備など多岐にわたり、その活動実績は本センターニュースに記載の通りです。年々増える支援内容に対して、センターのスタッフは少ないですが、皆真摯に対応いただいております。頭が下がります。感謝しかありません。また4月から新たにセンター長を和田信哉先生に、副センター長を片岡美華先生にお引き受けいただきました。両先生ともお忙しい中、兼務をご了承いただき、ありがとうございます。何卒よろしくをお願いいたします。

ところで、今年2月19日に「鹿児島大学 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進宣言」が発出されました。内容は皆様ご存じかもしれませんが、改めて提示させていただきます。

=====

鹿児島大学は、鹿児島大学憲章の精神に則り、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしてまいりました。

鹿児島大学男女共同参画基本理念である「一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために」を新たなステージに発展させるべく、ここにダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進を宣言します。

1. 鹿児島大学は、性別や国籍、年齢や障がいの有無などにかかわらず、多様な人々が互いを認めあい、安心して共生できる環境をめざします。
2. 鹿児島大学は、誰もが自分らしく学び合う大学であるため、多様な人々が対等に関わりあいながら協働し、個々のニーズにあわせた支援やリソースへの公平なアクセスができるようなキャンパスをめざします。
3. 鹿児島大学は、共生社会におけるバリアの解明と解決をめざし、異なる価値観に触れることで自らを啓発し、発展していけるような組織文化の醸成に取り組みます。

=====

皆様にはぜひこの宣言の内容をご理解いただき、より良き学生支援に繋げていただくことを切に願っております。「OLD SOLDIERS NEVER DIE, THEY JUST FADE AWAY」(老兵は死なず、ただ消え去るのみ)、私は大学を去りましたが、障害学生支援センターの今後の益々のご発展を祈念しております。

開催報告

令和7年度鹿児島県内の障害学生支援に関する情報交換会

5月23日(金)に県内高等教育機関の障害学生支援担当者を対象とした情報交換会をオンライン開催しました。本会は、県内大学等における支援体制や合理的配慮の取組、課題を共有し、連携体制の強化を図ることを目的として実施されました。当日は10大学22名が参加し、アンケート結果の共有や意見交換を行いました。事後アンケートでは満足度が高く、全員が今後の開催継続を希望し、年1~2回程度の実施や事例検討など実務的な内容へのニーズが示されました。今後も継続的な情報共有の場として、大学間連携の一層の強化が期待されます。

開催報告



障がい学生支援シンポジウム2025

「鹿児島の障害学生支援と就労移行に関する情報交換会」

9月22日（月）、障害学生支援センター（修学支援室）とキャリア形成支援センターの主催、東京大学障害と高等教育に関するプラットフォーム（PHED）および京都大学高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）の共催により、障害学生支援に関する情報交換会を開催しました。当日は鹿児島県内の企業や高等教育機関、行政機関、支援機関などから83名の方にご参加いただきました。第1部では、東京大学の近藤武夫教授、松清あゆみ特任助教、京都大学の村田淳准教授によるATライブラリー（支援機器の展示・実演）が行われました。また、本学理工学研究科情報科学専攻の西村方孝准教授による、視覚障害者への超音波を用いた音声情報提供技術の実演も行われ、参加者が実際に支援機器に触れながら理解を深める機会となりました。第2部では、近藤教授と村田准教授によるトークセッションが行われ、PHED・HEAPの取り組みや、地域連携によるジョブ型・超短時間雇用といった多様な学生の就労支援の可能性が語られました。話題提供では、TOTO株式会社の藤田浩史氏、鹿児島県商工労働水産部雇用労政課の有村尚子氏・鳥越隆雄氏、本学障害学生支援センターの川添茜先生よりそれぞれの取り組みや現状について発表がありました。その後のグループセッションでは、異業種・異分野の参加者による活発な意見交換が行われました。今後の連携や新たな取り組みに向けた前向きな声が多く聞かれ、地域の関係機関が気軽につながる場を継続する重要性が改めて確認されました。

開催報告

令和7年度障害学生支援のための研修会

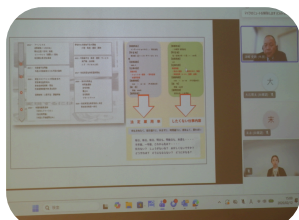
3月13日（金）に障害学生支援のための研修会を開催し、学内教職員および学生あわせて40名が参加しました。第1部では、当センターを利用した学生および卒業生3名による体験発表が行われ、大学生活における困難やその克服、支援を通じた成長や実感について共有されました。第2部では、障害学生支援センター長の前田雅人先生より「障害学生支援センターの10年の歩みとその実践から」と題した講演が行われ、支援の背景やこれまでの取り組みの経過、具体的な支援内容、関係部署との連携の重要性、さらには今後の展望について紹介されました。参加者からは学生の生の声を通して、支援を受けた学生の実験の経験や、抱えていた不安・困難、その乗り越え方を具体的に理解することができたとの意見が多く寄せられました。また、支援が学生生活に与える影響について実例をもとに理解が深まり、支援の重要性を改めて認識したとの声も多く見られました。さらに障害のある学生本人や支援担当者の思いに触れることで、支援に向き合う姿勢や今後の関わり方についての示唆を得るとともに、大学として果たすべき役割を再確認する機会となったとの意見が多く挙げられました。



開催報告

令和7年度就活に不安のある学生のための就活準備講座

就活や働くことに不安がある学生向けの就職準備講座を年間6回開催し、延べ73名の学生が参加しました。うち5回は就労移行支援事業所のウェルビー株式会社と連携した講座およびワークショップを開催し、就活や働くことに対する不安への向き合い方や就活の流れ、インターンシップの勧め、職業選択の仕方、企業研究の始め方などをテーマに講座を行っていただきました。また、1回は地域の支援機関を紹介することを目的とし、鹿児島新卒応援ハローワーク、鹿児島障害者職業センター、かごしま障害者就業・生活支援センターと連携した講座を開催しました。各機関の支援内容や利用方法の説明だけでなく、実際に新卒応援ハローワークで実施されているワークも取り入れていただき、自己理解を深めることができる講座となりました。令和7年度はこれまでより多くの講座・ワークショップを開催することができ、多くの学生が参加につながりました。講座後の感想からは自己理解や企業研究を深めたり、就活に取り組むきっかけとなったというような声が聞かれました。



開催報告

(株)トヨタ車体研究所との連携

障害学生向け学内企業説明会・企業見学会の実施

令和7年度は、鹿児島県の障害学生支援と就労移行に関する情報交換会をきっかけに県内企業や就労支援機関等とのネットワーク作りが少しずつ進んだと感じています。その1つとして、鹿児島県商工労働水産部雇用労政課からのご紹介で、株式会社トヨタ車体研究所の障害学生向けの学内企業説明会を開催することができました。障害学生向けの学内企業説明会は初めての開催で、4名の学生（文系2名、理系2名）が参加しました。会社のご説明の後、質疑応答の時間には積極的に質問をする学生の姿が見られました。参加学生からは「会社のことを知れて良かった」「質問時間を多くとっていただけて有難かった」「一緒に働くならという前向きな姿勢についても知れてこんな企業もあるのだと安心できた」といった感想が聞かれました。また、株式会社トヨタ車体研究所の方からも参加学生に対して肯定的なご感想をいただき、学生と企業の方が直接交流することができる貴重な機会となりました。さらに、学内企業説明会から、企業見学会にもつながり、3名の学生が参加しました。実際に企業を見学することで、会社で働くイメージを抱くことができたと感じます。今後も企業との連携を深め、様々な企業と学生が直接交流できるような企画を実施していきたいと思えます。



開催報告

修学支援室交流ワーク



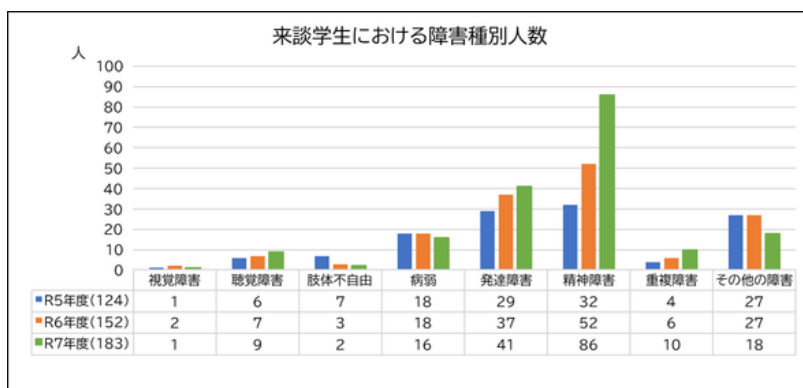
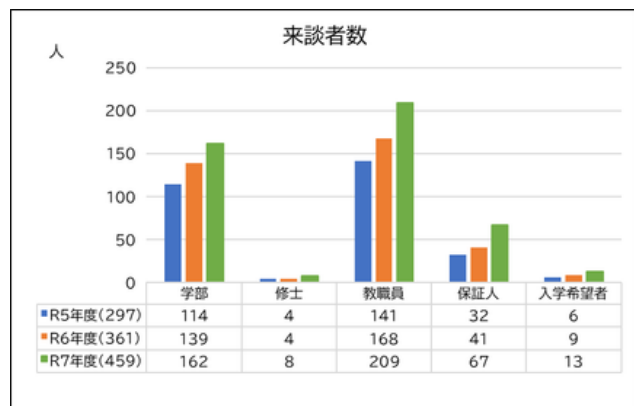
R7年度は8月と2月に2回の障害学生支援センターの学生同士、ボランティア学生、スタッフ等の交流ワークを実施しました。心理劇のウォーミングアップを中心に他者との関りの楽しさを実感してもらうことを目的として行っています。どちらの回にも学生は7名ずつ参加し「聞くより話すのが好き」「鬱屈とした気持ちは解消された。」等自分の事に気づいたり、「積極的に活動していた」「コミュニケーションの取り方は人それぞれ」等他者の個性や違いに気づくなど様々な気づきが得られました。今後も定期的実施していけたらと思っています。

実績報告

1)来談者数（来室もしくは相談があり面談や支援につながった実数）

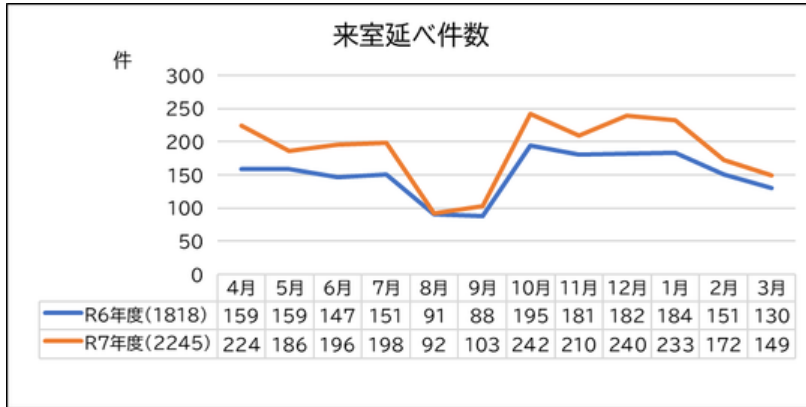
R7年度の来談者数は合計459名であった。学部生、修士生、教職員、保証人、入学希望者のいずれの項目においても、前年度と比較して人数の増加が確認された。

R7年度の来談学生についてJASSOの障害種別区分に準じて集計した結果、精神障害が最多であり発達障害がこれに続いた。また、重複障害の来談も増加しており、本センターにおける重複障害はすべて「発達障害と精神障害の重複」であった。R7年度は、発達障害・精神障害・重複障害の3区分の合計が全体の約75%を占めている。



実績報告

2)来室件数（当センターに来られた件数）



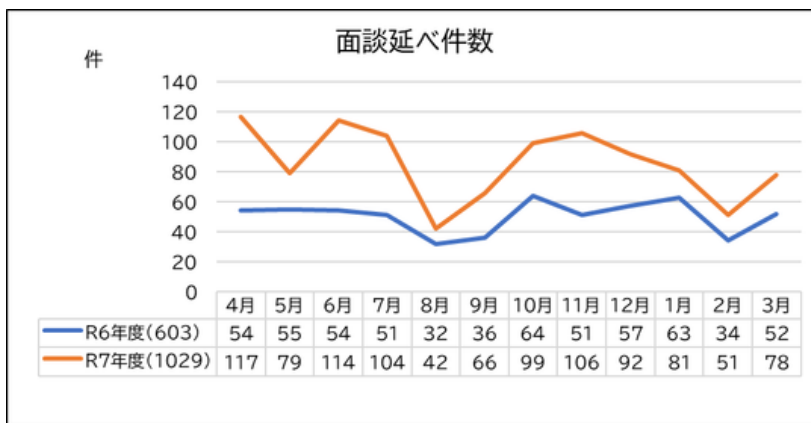
R7年度来室実数	
	人数
学部	82
修士	6
入学希望者	-
卒業生	5
計	93

R7年度障害学生支援 (来室)に関する連携実数	
	人数
教職員	38
保証人	13
外部機関	12
学生アルバイト	11
計	74

令和7年度の来室件数は2,245件であり、令和6年度と比較して1.18倍の増加となった。内訳として、来室者の実人数は、学生・卒業生が93名、教職員・保証人・外部機関・学生アルバイトが74名であった。学生本人の利用にとどまらず、それを取り巻く関係者との連携機会も増加していることがうかがえる。こうした連携の広がりに伴い、来室件数は年々増加傾向にある。

実績報告

3)面談件数



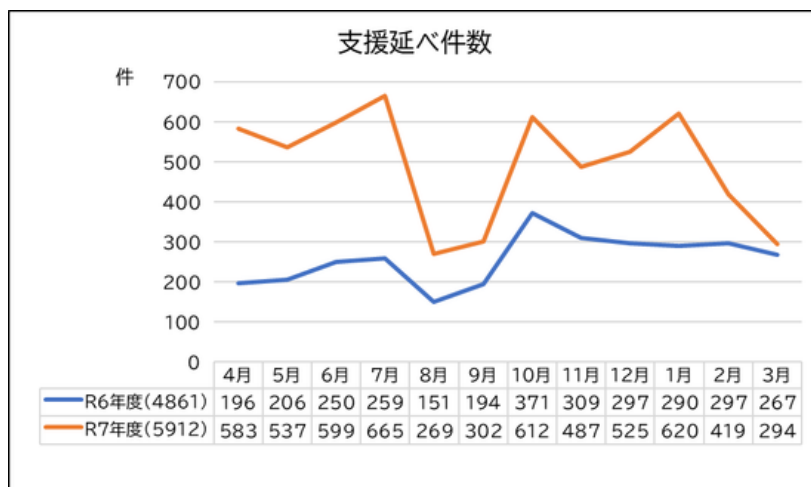
R7年度面談実数	
	人数
学部	137
修士	8
入学希望者	13
計	158

R7年度障害学生支援 (面談)に関する連携実数	
	人数
教職員	16
保証人	31
計	47

令和7年度の面談件数は、1,029件で、学生が158名、教職員及び保証人が47名であった。面談件数は令和6年度の1.71倍と大幅な増加となっている。学生支援の連携のため教職員、保証人との面談も増えている。

実績報告

4-1) 支援件数（修学及び生活に関する支援件数）



R7年度支援実数	
	人数
学部	152
修士	8
入学希望者	2
卒業生	8
計	170

R7年度障害学生支援 に関する連携実数	
	人数
教職員	193
保証人	50
外部機関	26
学生アルバイト	7
その他	5
計	281

令和7年度の支援実数は、学部生152名、修士課程学生8名、入学希望者2名、卒業生8名の計170名であった。また、障害学生支援に関する連携実数は、教職員193名、保証人50名、外部機関26名、学生アルバイト7名、その他(就職活動中の学生等)5名となっており、延べ281名との連携を行った。なお、令和7年度の支援件数は5,912件で、前年度比1.22倍と増加がみられた。外部機関との連携件数も増加しており、学内外の関係者と連携した支援体制の拡充が進んでいることがうかがえる。

No.	修学に関する支援内容	計	
1	点訳・墨訳	0	
2	教材のテキストデータ化	0	
3	教材の拡大	0	
4	ガイドヘルプ	0	
5	リーディングサービス	0	
6	手話通訳(触手話を含む)	0	
7	ノートテイク・パソコンテイク	36	
8	ビデオ教材字幕付け・文字起こし	0	
9	補聴援助システム	0	
10	パソコンの持込・使用	36	
11	読み上げソフト	0	
12	音声認識ソフト	36	
13	ノイズキャンセリングイヤホン等	0	
14	講義の録、板書の撮影の許可	0	
15	オンライン授業における情報保障等	0	
16	グループワーク等の実施における配慮	0	
17	実技・実習、フィールドワーク等の実施における配慮	3	
18	授業内容の代替	0	
19	オンライン授業による対面授業の代替	1	
20	レポート作成等の学習指導	11	
21	履修登録の支援	10	
22	試験時間の延長	0	
23	別室受験	9	
24	解答方法の配慮	4	
25	注意事項等の文書による伝達	1	
26	出席に関する配慮	2	
27	提出期限の延長	0	
28	要望に応じた使用教室の配慮	0	
29	要望に応じた座席の配慮	4	
30	専用机・椅子・スペースの確保	1	
31	チューター等の活用	68	
32	その他の授業支援(No.33~47独自の授業支援)	2770	
33	①独自の授業支援	支援機器の使用説明・貸し出し	33
34		休学に関する確認・連絡等	16
35		成績に関する確認・連絡等	19
36		時間割に関する確認・連絡等	98
37		授業出席への声かけ・同行・見送り支援	95
38		オンライン授業支援・自習支援(学習室利用)	574
39		保証人との連携(メール・TEL)	109
40		担当教職員との連絡(メール・TEL)	424
41		近況確認連絡(メール・TEL)	322
42		メール相談(学生・教職員・保証人)	88
43		TEL相談(学生・教職員・保証人)	109
44		保健管理センターとの連携	5
45		支援申請書に係るモニタリングと調整等	320
46		面談調整	533
47		引継	25
小計		2992	

No.	生活に関する支援内容	計	
1	学生生活支援	専有スペースの確保・利用(居場所の確保、仲間づくり)	1
2		通学支援(自動車通学許可、専用駐車場等)	0
3		個別支援情報の収集(出身校との連携等)	0
4		情報取得支援 (行事業内、休講情報等、教室・試験教室の確認、病院・977代行予約)	232
5		障害学生支援担当部署による定期的な面談、相談対応	1
6	導ス社 ・キ会 助言指	自己管理指導(メール・ライン作成、 服装声掛け、手続き同行、提出物の確認、スケジュール管理等)	267
7		対人関係スキル指導・相談(対人スキル、トラブル対応等)	4
8		日常生活支援 (起床のTEL、声かけ、食事、洗濯、入浴、睡眠等)	791
9	生活管理・ 保健管理	専門家によるカウンセリング	0
10		医療機器、薬剤の保管等	2
11		休憩室、治療室の確保等	364
12		生活介助(体位変換、食事、トイレ等)	0
13		介助者の入構、入室許可	0
14	その他の授業以外の支援(No.15~30独自の生活支援)		1258
15	②その他の授業以外の支援	アルバイト学生との連絡	91
16		印刷・スキャン	271
17		卒後フォロー	331
18		保証人との連絡(メール・TEL)	31
19		担当教職員との連絡(メール・TEL)	42
20		近況確認連絡(メール・TEL)	136
21		メール相談(学生・教職員・保証人)	18
22		TEL相談(学生・教職員・保証人)	23
23		保健管理センターとの連携	19
24		引継	5
25		キャリア教育(障害理解、職業適性の把握等)	15
26		障害学生向け求人情報の提供	7
27		就職支援情報の提供、支援機関の紹介	15
28		インターシップ先の開拓	0
29		就職先の開拓、就職活動支援 (学習室個別スペース使用)	143
30		医療機関との連携	5
31		地方自治体との連携	9
32		地域の相談・支援機関との連携	38
33	就労支援機関・企業等との連携	59	
小計		2920	

※緑色の項目はJASSOの調査項目にある支援。白色はJASSOの調査項目にないセンター独自の支援によるもの。

実績報告

5) 支援申請書提出件数

支援申請書申請人数	
	人数
学部	76
修士	2
計	78

令和7年度の支援申請書提出は、1000件（申請人数78人）でした。令和6年度の提出は660件（申請人数58人）であり、件数、申請人数ともに毎年度増加しています。主な合理的配慮の内容として、「遅刻・欠席・早退時の配慮・情報保障」「座席指定支援機器使用・気分不良時の配慮」「提出物に関する配慮」「重要事項の情報保障」「グループ活動・発表の配慮」「授業形態に関する配慮」「気分不良時の配慮」等があります。

＊支援申請書は根拠があり合理的配慮の提供について必要であると判断された申請書です。記載されている合理的配慮内容は提案ですので、講義内容によって変更や調整が必要だと思えます。変更や調整のご相談もぜひご連絡ください。

～支援申請書提出の流れ～



活動報告

1) 支援会議・協議会

年度	R6年度												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入試事前協議会					1	2	5		5	17	6		36
入学事前協議会													0
修学支援会議	1	1	1			1			2	1	1	2	10

年度	R7年度												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
入試事前協議会								3	7	16	4		30
入学事前協議会													0
修学支援会議	4			4	3	1	7	4	1	2	1	2	29

活動報告

2) 令和7年度研修・講習会等の活動記録

年月日	研修・講習会
令和7年4月4日	令和7年度鹿児島大学新任教員SD研修会講師
令和7年5月10日～12日	日本学生相談学会第43回大会参加
令和7年5月21日、22日	令和7年度就活に不安のある学生のための就活準備講座開催
令和7年5月23日	鹿児島県内の障害学生支援に関する大学間連携情報交換会開催
令和7年7月4日	和歌山大学令和7年度多様な学生の支援を考えるFD/SD研修会「合理的配慮の考え方と実践について」オンライン参加
令和7年8月7日	修学支援室交流ワークの開催
令和7年9月4日～5日	全国高等教育障害学生支援協議会(AHEAD JAPAN)第11回大会参加
令和7年9月22日	鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム 2025 鹿児島県の障害学生支援と就労移行に関する情報交換会 開催報告
令和7年9月29日	筑波大学BHE研修会「精神障害学生への合理的配慮を含めた包括的支援を考える」オンライン参加
令和7年10月23日	筑波大学BHE研修会「DE&Iの視点から大学の授業デザインについて一緒に考えてみませんか？」オンライン参加
令和7年10月24日	障害者支援に関する大学間連携情報交換会への参加
令和7年10月25日	障害者支援に関する大学間連携プログラムによる研修会へのオンライン参加
令和7年11月25日	筑波大学BHE研修会「学生が時間管理をできるようになるための支援法」オンライン参加
令和7年12月3日	就活に不安のある学生のための就活講座開催
令和7年12月8日	聴覚障害就職支援研修会オンライン参加
令和7年12月18日	㈱トヨタ車体研究所 障害学生向け学内企業説明会・企業見学会の開催
令和7年12月22日	筑波大学BHE研修会「女性の発達障害における『見えにくさ』を踏まえた学生支援」オンライン参加
令和8年1月29日	鹿屋体育大学FD/SD研修「教職員のための学生支援に関する講演会」講師
令和8年2月13日	修学支援室交流ワークの開催
令和8年2月18日～20日	HEAP 障害学生支援・専門職プログラム「コーディネーター育成研修(高度専門職プログラム)への参加
令和8年3月13日	令和7年度障害学生支援のための研修会
令和8年3月18日	令和7年度就活に不安のある学生のための就職準備講座～企業研究の第一歩～開催
令和8年3月26日	(株)パーソルダイバースによる「コミュニケーション・サポート・プログラム」開催

募集

学生ボランティアの募集～DIVERSITYある大学を共に創ろう

障害学生の修学支援のサポートして下さる方を募集しています！！



—有償ボランティア—

- 1.PCテイク・要約筆記・ノートテイク
- 2.学修支援・スケジュール管理
- 3.バリアフリー調査・バリアフリーマップ作成

—無償ボランティア—

- 1.障害学生支援センター主催の情報交換会・タウンミーティング等での情報保障支援
- 2.障害学生支援センター主催の交流ワーク・就活セミナー等での学生支援
- 3.居場所活動

*有償ボランティアはご自身の講義が入っていない時間に限ります。

*支援希望の学生とのマッチングになります。必ずできるとは限りませんのでご了承ください。

*詳細につきましてはお気軽にお問い合わせください。

ボランティア登録フォーム↓

ボランティア学生登録フォーム（障害学生支援センター）



支援機器

機器の説明やお試しもできますので、お気軽にお問い合わせください

NO.	支援機器	メーカー・機種・その他
1	点字対応テブラ	キングジム SD6700D
2	ICレコーダー	Pannasonic RR-XS455-K
3	車いす	マツナガ 42幅 自走タイプ
4	ストレッチマット・ボール	屋内外兼用
5	テント	North Eagle キャンピーフルクローズ
6	折りたたみベッド	F907-g1001-100
7	書画カメラ	エプソン ELPDC21
8	体圧分散クッション	EXGEL ミニブニ
9	ロジャーペン	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
10	ロジャータッチスクリーンマイク	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
11	ロジャータッチスクリーンマイク3	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
12	ロジャーテーブルマイクII	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用 卓上置き型マイク
13	ロジャーオンIN	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
14	ロジャーフォーカス	聴力に関係なく、大きな講義室の中で先生の声だけをよりクリアにきくことが可能
15	ロジャー 線音源スピーカー	デジタルマスター7000
16	ロジャー パスアラウンドマイク	Rogerタッチスクリーンマイクとの接続が可能なマイク。人の声の集音に優れている。(2台)
17	ロジャーオン3	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
18	LoopSwitch2	1つで3つのレベルが使用できるノイズリダクション耳栓
19	LoopEngage2	日常の雑音を低減するノイズリダクション耳栓
20	ウェブカメラ	C-615
21	ノートパソコン	Lenovo ThinkPad(2台)
22	iPad	Apple(2台)
23	電子メモパッド	KING JIM boogie board BB-9
24	スキャナー	富士通 ScanSnap SV600 新聞や雑誌の見開きなどの大きなサイズの原稿、とじられた本を切ったりせずに、最大A3サイズまで読み取れる。大切な原稿も紙面に触れずに読み取れるので、原稿を傷めない。
25	ヤマハ ユニファイドコミュニケーションスピーカーフォン	1～4名程度の打合せに最適。バッテリー搭載でミーティングコーナー・自宅・外出先などあらゆる場所で利用可能。
26	ヤマハ ユニファイドコミュニケーションマイクスピーカー YVC-330	4～6名程度の小規模遠隔会議に最適な会議用スピーカーホン。騒がしいオープンスペース・静かな会議室それぞれの利用に適した2つのモードを搭載。
27	ワイヤレス充電デスクライト	タッチセンサー、5段階調色、5段階調光、タイマー機能、メモリー機能、ワイヤレス充電(3台)
28	1人用ワークブース	(株)オカムラ(テトラ1基) 最小1㎡のスペースに手軽に導入できる、吸音パネルに天板を組み合わせたセミクローズの一人用ワークブース。
29	フルクローズ型ワークブース	(株)オカムラ(テレキューブ2基) 床・壁・天井すべての面が囲われた個室空間。遮音、吸音、照明、換気の各機能が整っている。

障害学生支援について理解を深めていただくための動画を、YouTubeにて公開しました。

この動画では、以下の内容などをわかりやすく紹介しています。

- ・合理的配慮の概要
- ・障害別学生の支援

障害のある学生の皆さんはもちろん、支援に関心のある学生、教職員の皆さまにもご覧いただきたい内容となっています。ぜひお気軽にご覧いただきご活用ください。

▶ 動画はこちら

【https://www.youtube.com/channel/UCP3LwZrTm_Tr9OafbUrCwxw】



編集後記

昨年度末に、前センター長の前田雅人先生がご退官されました。様々な面でお世話になり感謝してもしきれませんが、今まで本当にありがとうございました。そして今年度より、新しいセンター長の和田信哉先生と副センター長の片岡美華先生にお越し頂き、大変光栄に感じております。今後とも障害学生支援センター・修学支援室の皆さまと支え合いながら業務に取り組んでいけたらと思います。4月の多忙さに追われ気づけば5月も終わりに近づいています。休日ののんびりする時間を大切できたらと思います。